



令和2年4月発行

発行：香川医療生活協同組合  
高松協同病院

発行者：院長 北原孝夫

編集：高松協同病院 広報委員会

H P: <http://t-kyodo.com/>

## 新人紹介

## 高松協同病院の 新しい仲間をご紹介します!!

①お名前 ②職種 ③出身地 ④趣味 ⑤特技



- ① 東 恵理 (あずま えり)
- ② 理学療法士
- ③ 香川県 観音寺市
- ④ カメラ
- ⑤ 50メートル走

この度、理学療法士として東病棟に配属になりました東恵理です。患者様に寄り添い、心身ともに元気にできる理学療法士を目指して頑張ります。ご指導の程よろしくお願い致します。



- ① 大庭 博子 (おおば ひろこ)
- ② 看護師
- ③ 香川県 高松市
- ④ 音楽鑑賞、ライブ、舞台
- ⑤ 話を聴くこと

この度、看護師として西病棟に配属になりました。新人看護師ですが、1つ1つの業務を丁寧に実施しながら、患者様とコミュニケーションを図って信頼を預ける様に頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。



- ① 坂野 葵 (さかの あおい)
- ② 言語聴覚士
- ③ 香川県 高松市
- ④ ゲーム、音楽鑑賞
- ⑤ 絵を描くこと

この度、西病棟に配属になりました坂野葵です。患者様1人ひとりに寄り添える言語聴覚士を目標に日々精進していきたいと思ひます。よろしくお願い致します。



- ① 白川 峻平 (しらかわ しゅんぺい)
- ② 作業療法士
- ③ 香川県 三豊市
- ④ カラオケ、ゲーセンのプライズ
- ⑤ 早起き

高松協同病院東病棟の仲間入りをさせていただきます白川と申します。1つ1つ業務に慣れ、早く一人前になり、患者様を笑顔にしていけるように頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願い致します。



- ① 萩 涼称 (はぎすずな)
- ② 看護師
- ③ 香川県 高松市
- ④ 音楽を聴く、ライブに行く、DVDやテレビを見る
- ⑤ 起こされなければずっと寝ていられること

3月は1日15時間程寝ていました。これからはきちんと目を覚まして、患者様に寄り添うことができる看護師になれるよう、努力していきます。ご迷惑かけることが多々ありますがよろしくお願い致します。



- ① 松下 和樹 (まつした かづき)
- ② 理学療法士
- ③ 香川県 高松市
- ④ 旅行、ドラマを観ること
- ⑤ 人を笑顔にすること

この度、理学療法士として西病棟に配属になりました松下和樹です。未熟者ですが患者様が毎日笑顔になってもらえるように自分自身の長所である元氣と笑顔を用いて日々精進していきます。よろしくお願い致します。



- ① 矢野 早記 (やの はやく)
- ② 作業療法士
- ③ 香川県 三豊市
- ④ 釣り、料理
- ⑤ 食べること

以前、臨床実習でお世話になりました。その経験を生かして、これから患者様と共に生活を歩んでいけるような作業療法士になるため頑張ります。ご迷惑をかけることもあると思いますが、よろしくお願い致します。

## 3月採用新人さん



- 左から  
看護師：松本 愛華 (まつもと あいか)
- 看護師：安廣 亜樹子 (やすひろ あきこ)
- 看護師：土居 永奈 (どいはるな)

## ウォークエイド

今回は昨年度末、高松協同病院に導入されたリハ機器『ウォークエイド』について紹介させていただきます。

ウォークエイド（歩行神経筋電気刺激装置）は、歩行に合わせて腓骨神経を電気刺激することで足関節の背屈を補助し、中枢神経系による下垂足・尖足の改善（機能的電気刺激）を目的としたリハ機器です。名称の通り、歩行時に電気刺激を行えるのが一番の特徴です。下垂足、尖足が特に問題となる、遊脚期に通電し背屈を誘導することで、歩幅、歩行率、歩行速度の改善が期待できます。

ウォークエイドには「傾斜センサーモード」というものがあります。患者様の歩行パターン（下腿の傾斜角度）と通電出力のタイミングを記録することで、スイッチを押さなくとも、歩行パターンに合わせて自動で通電してくれます。このモードを利用することで、徒手での歩行訓練と機能的電気刺激を組み合わせたりハビリを提供することが可能となります。また、装具の代用、装具との併用も可能ですので、装具療法との組み合わせも可能となり、リハビリの幅が広がるものと考えます。より患者様にあった、より良いリハビリを提供する為に、機器を理解し、運用していきたいと思えます。



## HPHの取り組み

高松協同病院は、健康増進活動拠点病院（HPH）である事をご存知でしょうか。そもそも、HPHとは、治療や看護介護を提供するだけでなくヘルスプロモーションの考え方を基に患者や職員、地域住民らが一体となった健康増進を促進する病院の事です。

当院は、2年前からHPH委員会が発足、昨年は初めて各職場でHPH目標というものを立て活動しました。週に1回笑いヨガを行った職場や、定期的に体重測定をして自分の健康に目を向けたり、ようかい体操を週1回したりと、バラエティーに富んだ目標でそれぞれの職場で奮闘した様でした。その後、目標達成の発表会を今年1月に行いました。模造紙にまとめて掲示し職員全員に優良職場を投票してもらいました。大賞の結果は次の通りです。



**1位** … 東病棟Bチーム  
「スキンケアをしっかりとって感染予防と乾燥軽減」

**2位** … 西病棟  
「朝ごはんを食べよう」

### 特別賞

東病棟Aチーム  
「あいうべ体操をマスターして、患者様指導・嚥下改善に活かそう」

医事課  
「NO残業デイを定着させる」



1位の東病棟Bチームは、職員が日々のケアで手洗いをすると手は乾燥し、皮膚のバリア機能低下がみられ感染源になってしまっている事から、スキンチェッカーで職員の手の水分・油分をチェック。すると、年齢に関係なく乾燥していることが分かり、手洗いごとに保湿するようにしたそうです。

2位の西病棟は、朝食摂取の実態調査を職員に行い、毎日食べていない職員に朝食摂取の必要性が書かれたプリントを配布、その後のアンケートで朝食を食べるようになった職員が増えたとの事です。

今回は初めての取り組みだったので、職員向けの活動が多くみられましたが、今後は組合員さんや地域住民の方に向けて活動範囲を広げていきたいと考えています。でも、まずは自分たちからの健康活動が大事です。（口で言う（指導）前にまず自ら行動）

高松協同病院は、もともと組合員さんや地域の方との交流が盛んな病院ですが、地域の皆様にもっと健康になってもらう為に、私たち医療従事者も本来の健康について考え、もっと地域の中心施設になれるよう、HPH委員会は健康増進を推進して参ります。



## 歩行補助 ロボット



近年、脳卒中をはじめとする中枢性疾患の歩行リハビリテーションに歩行補助ロボットを用いた歩行練習が着目されており、当院では2017年から歩行アプローチとしてHonda技研工業製歩行アシスト装置®(以下、歩行アシスト)を導入しています。脳卒中などで手足の麻痺があり、歩くことが困難な患者様が自立して歩くことができるようになる為のツールとして活用してきました。

一日のリハビリで20分以上、機器を装着して歩いていただき、歩行をするときの適切な筋肉の活動を促すことで、歩くスピードが遅く屋外での歩行が困難な患者様の歩行が安定し、退院後に外出や買い物に行けるようになった患者様もいました。さらに2019年度は、導入後の使用データを分析した研究をすすめ、歩行アシストの効果を検証しました。脳卒中や運動器の疾患の方約30例を対象に検証した結果、約8割の方で効果ありという結果が出ました。

2020年2月にHonda本社青山ビルで歩行アシストの研修会があり参加してきました。全国の様々なリハビリ病院で歩行アシストは普及してきています。回復期病棟だけでなく、デイサービスや訪問リハビリでも使用数が増えてきています。

当院では歩行アシストのリハビリを更に普及させ、リハビリの効果を高めていきたいです。

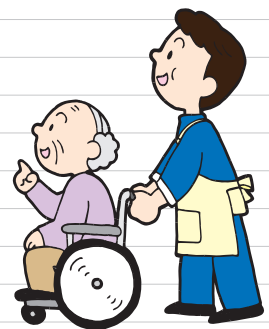


## お花見

協同病院は春日川のそばに建っています。春日川の河川敷には沢山桜が植えられており、毎年この時期にはたくさんの人が花見にきています。

今年の協同病院のお花見は、3/30～4/3の期間で、春日川の河川敷に行くことにしました。3/23に開花宣言があったため、散ってしまうのではないかと考えていましたが、その逆で、3/30の開始日はまだあまり桜は咲いていない状態で、日を追うごとに少しずつ増えていきました。

寒い日もありましたが、「桜を見ることができて良かった」「日課で春日川を歩いていたので懐かしい」という感想をいただきました。同行した職員の心も少し温くなりました。



お花見ポイントまで  
協同病院から約500メートル。  
がんばって歩いています！



途中で休憩場所を  
作りました。



地域の方々とも交流



この日は天気が悪かったです。  
桜もまばら…。



## 事業所利用委員会

香川医療生協は、職員と組合員が共同し、事業所への意見や要望、利用しやすい環境づくりを目指し高松協同病院に事業所利用委員会を設けています。

月1回の事業所利用委員会を開催し、利用者さんに快適な医療を受けていただくために様々な取り組みを行っています。

- ・ラウンドチェック…環境整備と美化の取り組みとして、利用委員会開催30分前に、事業所の外構、病棟、外来をチェックシートに基づき組合員の視点でパトロールを行います。後の利用委員会で報告、改善していきます。
- ・虹の箱…組合員・利用者さんが苦情・意見・要望・提案などを投書を入れていただく投書箱です。「虹の箱」は院内6ヶ所に設置し、月2回開扉します。100%回答し、該当職場、管理会議を経て改善につなげます。

先日は、「どんなことにも真剣に耳を傾けてくださるDrがいらっしゃる事に感激しました。以前からもそうですが高松協同病院に対する信頼感を改めて強く感じました。」というお手紙を頂きました。職員一同大きな喜びになりました。

厳しい意見も頂きますが今後、病院への課題、苦情処理を行うだけでなく、組合員と職員が主体的に医療内容や接遇等を調査し、問題解決を図っていきます。また、病院の運営全般の課題を取り扱い「運営参加」活動に取り組んでいきます。



## 地域ケアNST

地域ケアNSTは医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士で構成されており、時に歯科衛生士や薬剤師も参加して活動しています。

活動内容としては、月1回カンファレンスを実施し外来・通所・訪問リハビリ利用者様の栄養状態について評価・検討し低栄養や肥満に対するアプローチを行うことや、健康まつり等を通じて地域の方へ栄養サポートを行う取り組みをしています。現在は利用者様への介入が中心となっていますが、地域連携の強化に向けた取り組みについてメンバーで検討しています。

より多くの地域の方々が健康維持・増進し、生き生きと安心した在宅生活が送れるようお手伝いできればと思います。



## 平和・社保委員会

当院には職員で構成する「平和・社保委員会」というものがあります。

みなさんは「平和・社保」と聞いて何を連想しますか?「平和」はまだわかるとして「シャボってなに?」という方が大半ではないでしょうか?シャボとは「社会保障」のこと。年金、医療から介護、労働なども私たちが病気やけがをして働けなくなったとき一番気になる「所得保障」を中心に、困ったときには私たちの生活を支えてくれる大切な制度です。

私たちがどんなに気を付けて生活していてもいつケガや病気にかかることは避けられませんし、またそれが引き金となって生活困難に陥る方も少なくありません。「平和」と「社保」はいのちと健康を守る立場にある私たち医療従事者にとってもっとも重視すべき「価値」であり、決して後退させず護っていかなくてはならないものだと考えます。

これからも職員相互に力を合わせ宣伝行動、署名活動に取り組んでいきたいと思っています。

